

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2971400227		
法人名	有限会社LUPIN		
事業所名	グループホームLUPIN平群(1階ユニット)		
所在地	奈良県生駒郡平群町上庄三丁目7番25号		
自己評価作成日	令和6年2月6日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和6年2月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スタッフ一同が入居者の皆様の幸せを共に感じ安心して過ごしていただける住まいを目指し、認知症であっても住み慣れた地域で心穏やかに生活を送っていただくように個別の支援を行います。また優しく丁寧な対応を心掛けています。1日の過ごし方は様々ですので、その方の生活リズムに合わせて、認知症予防の取り組みとして、個別の対応をスタッフで共有し実行しています。数年前より畑づくりで、農作物の準備、水やり、収穫の取り組みに力を入れています。昔から畑や花の世話をされてきた方が多いので、入居者、スタッフが共に考える機会となり、楽しみの共有を深めることができている。往診や訪問看護との医療連携により体調管理に努め看取り介護にも継続して取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

道路に面した住宅街に位置し、リビングには、大きな窓が設置され明るく光りが差し込み、利用者からも外部の様子がよく見え、ホーム外からも様子が伺える。敷地内には、家庭菜園も設置され、地域の方にも生活が分かる開かれたホームです。利用者本位の生活を送って頂けるよう、職員が丁寧な声かけ、相手の立場に立ったケアを大切にされています。馴染みの生活の継続が出来るよう、面会、外出、外泊なども、感染対策をされた上で、制限なく可能です。家庭菜園や散歩など、その日の本人の思いを大切にホーム内で生活できるように支援されています。医療機関との連携も細目になされており、暮らし慣れた場所で最後までを希望される方が多く、看取りの事例も多くあり、安心して過ごすことが出来るように支援されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆様の幸せを共に感じ安心して過ごせる住まいを目指し、高齢になっても住み慣れた地域の住まいで安心して穏やかに生活を送っていただけるように個別の支援を行い優しく丁寧な対応を心掛けています。職員間で唱和もしていません。	理念、行動指針を事務室、各フロアに掲示されています。職員の入職時にも説明をして、理念が実践できるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になってから地域との交流は減っているがケアマネや民生委員との交流会には参加している。	自治会に参加され、以前は近隣の保育園児との交流や神社のお祭りにも参加されています。また日中ホーム前の駐車場から近隣の方々と挨拶を交わすなどして交流を図っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での取り組みをグループ内の会議などで共有し他事業所の認知症ケアに活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年から定期的に御家族様向けに活動報告などを継続している。11月に運営推進会議を久々に開催し、ケアマネと情報交換しました。	2か月に1回、行政や地域包括、自治会、家族が参加して活動報告や医療対応者の状況報告等がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に福祉課、社協、包括に行き空き状況のチラシを渡し、運営報告なども行っている。	行政、社協、地域包括等に出向き空き情報や活動報告がなされています。また、近隣グループホームとの交流会もなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会開催。指針の確認。定期会議での身体拘束廃止について話し合い実践に活かしています。	法人の年間研修に参加、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれています。フロアの出入口はオートロックとなっているが、要望や状況等に応じて個別対応されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の日々の状態観察からはじまり、皮膚状態以外にも身体面、精神面の変化に充分注意を払っています。また不適切なケアがないように指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同グループ内で成年後見制度を利用している利用者の事例を学んだりしています。顧問行政書士から制度の説明を受けられる体制もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約は管理者またはそれに代わるものと職員2名で立ち合い説明不足がないか確認しながら実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	懇談会やケアプラン説明時、また面会時などに意見や要望を聞いています。意見があれば連絡ノートに記載。意見箱も設置しています。	玄関前には意見箱が設置されていますが、懇談会や面会時に意見や要望を聴取され、連絡ノートに記載して管理者、職員が情報を共有されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行っています。それ以外にも職員が意見を言いやすいように役職者から積極的に意見を聞くようにしています。定期的な面談もしています。	2週間に1回職員会議があり利用者の状況や運営、法人の連絡事項について気軽に意見、提案ができる雰囲気づくりを大切にされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の行動目標を作成してもらい、役職者から代表者まで確認しています。会社の運営会議の内容も一般職が議事録を確認できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での研修会開催。各事業所ごとの勉強会も推奨しております。外部研修への研修費の負担や勤務調整への協力体制もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に営業活動を実施し情報交換しています。12月には町内のグループホーム3事業所で意見交換をしました。ケアマネ研修での情報交換もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせ時から信頼関係構築のために相手の話をゆっくり丁寧に聞くように心掛けています。笑顔で接する気持ちを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後はできるだけ、御家族様へご様子をごまめに伝えていきます。コロナ禍であっても面会は継続していました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険サービスだけでなく、医療や訪問マッサージなども希望に沿って主治医に確認しています。ショートでの対応もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、家族様のそれぞれの想いを理解するように努め、橋渡しができるように寄り添う気持ちを大切にしています。毎月担当職員が家族様に手紙を出しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をとっていただきながら面会や家族様との外出を定期的にしていただき絆を大事にさせていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策をとっていただきながら面会や家族様との外出を定期的にしていただき絆を大事にさせていただいています。	看取り対応をされており、居室内での家族以外の面会にも対応され希望があれば、家族との外出、外泊等についても対応をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間同士の相性を職員が把握し、関係性を元に食事席やレクリエーションを行っています。一人で過ごしたい時は過ごせるような配慮もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームの利用終了は退去になるが、近隣に住まわれているご家族様も多いため、ホーム周辺でお会いした時は、お声掛けをさせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望があった場合は職員間で検討し反映するように努めています。場合によってはご家族様の意見も求め確認しています。	利用開始時に本人、家族から生活歴や趣味などを聴取されています。入所後は日々の関わりのなかで気づきや思いを汲み取れるように努められ、加えて家族との連絡、面会時に聞き取りをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時から生活歴や職歴、趣味なども確認し情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者や計画作成担当者を中心に現状把握に努め、家族様とも情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当者や他のスタッフと検討する時間を確保し課題整理から実践しています。	利用者や家族の思いを踏まえ、利用者個々の生活全般での課題を検討、整理し、プランには、全身状態や日常生活動作、精神面にも考慮して作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別記録表に行っています。職員は介護計画作成時にも個別記録を参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は日々の関わり以外でも必要な支援がないか考え、地域の社会資源の活用を検討しています。パンの移動販売も来てもらっていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は地域のボランティアでお花教室などを開催していたが、現状は地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診でかかりつけ医と連携を図っています。LINEワークスも活用しており医療機関、訪問看護ともスムーズに連携が図れるようになりました。	主治医は利用者や家族の希望で選択されています。往診は月1回の訪問を基本とし、状態変化や緊急時にはLINEワークスの活用でよりスムーズに連携されています。他医療機関受診の際も、状態報告や送迎等、支援をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にて入居者様の状態把握に努めていただいております。夜間、日曜などもオンラインにて相談、訪問していただくこともあります。LINEワークスでも情報共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院時情報提供書を速やかに作成し入院先に提出しています。入院中はMSWと退院前の情報を共有し、必要な情報はかかりつけ医にも情報提供しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	令和6年1月にも看取り対応させていただいております。特に看取りについては家族様、医療機関と情報共有のカンファレンスを事前に開催し、方向性を決めています。	入居時の意向確認から、状態変化があるごとに、細目に、本人、家族の意向確認をされています。ホームで出来る事、出来ない事を説明した上で、希望されれば医療機関とも協力しながら、ホームでの看取りをされています。最後まで暮らし慣れた場を希望される利用者も多くおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを元に確認していますが、役職者が中心の対応となっています。職員向けに訓練や研修は開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施しています。初期消火訓練や避難訓練など入居者様にも参加していただき実施しています。	年2回(9月、3月)、日中想定、夜間想定訓練に利用者も参加して実施されています。食品については、3日分の備蓄があります。	非常時の備蓄水について、十分な量の確保が課題であるとホームで感じておられます。有事に備え、備蓄品の必要量の確保、リスト作成などを行い、より安心して生活が送れるホームになるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への尊敬の念を大切にしています。接遇マニュアルに基づき丁寧な言葉遣いを心掛けています。	常に、利用者、家族の立場に立った声かけが出来るよう、職員一同が意識してケアに取り組まれています。同性介助の希望があれば、出来るだけ対応できるよう、配慮がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導でなく、小さな事でもご本人が選択肢から決定できるよう「待つケア」を心掛けています。複数の対応が重なった時など十分対応が出来なかった時は、その事を振り返り、次の対応に活かしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様の生活を優先する為、おおまかなタイムスケジュールはあるが柔軟に対応するように努めています。常に入居者の変化に気付けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後に整容を行っていますが、その後に必要な場面があれば整髪や衣類は整えて対応しています。更衣時には衣類を選んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の影響で準備などはしてもらっていないが、家庭菜園で収穫したサツマイモをおやつで提供しました。片付けは一緒にしています。	ホーム敷地内に家庭菜園があり、利用者と一緒に収穫した野菜などを食事やおやつに提供し、収穫の喜びや季節感を大切にされています。行事食やおやつ、利用者のお好きなものをメニューに組み入れられるように工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり美味しく食べれる量の把握、安全に食べられる形態の把握を目的にチェック表を使い水分や食事量の記録と食事の様子を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアは全員を対象に行っていますが、昼は必要な方のみ。義歯も全て職員管理しています。歯科医師からケア方法の助言を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	独自の24時間チェックシートで排泄パターンを把握しています。排泄の失敗を無くす事、トイレで気持ちよく排泄できることの意義をしっかりと理解したうえで介助支援しています。	トイレで気持ちよく排泄が出来るよう、重度化されても支援されています。独自の排泄のチェックシートを活用し、食事・水分量と連動した管理を行い、自然排便ができるよう、緩下剤のコントロールについて、医療職と相談しながら実施されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトをメニューに入れたり体操の時間を設け便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としています。その時の気分で入浴を拒む人には別日に対応することも可能としています。リフトもあり重度化しても対応できます。	週2回の入浴を基本とされています。入浴を拒否される場合には、無理強いせず、時間や人、曜日を変更して支援されています。気持ちよく入浴して頂けるよう、個別に音楽をかけての入浴や季節の湯なども実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも状況に応じて休んでいただく時間を確保しています。精神面の不安から落ち着けない場合はそばに寄り添い、話しの傾聴に努め安心してもらえるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲み忘れ、落薬の事故防止のため服薬は2人体制での対応を基本としています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を本人だけでなく家族様からも情報収集し、すこしでも喜んでいただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の延長で以前のような外出支援はできていません。外気浴や家庭菜園の水やりや収穫は一緒に実施しています。	利用者の希望に応じて、散歩や家庭菜園での作業などの支援をされています。外出や外泊については、家族の協力を得ながら、自由にすることができます。重度化された方については、車椅子での送迎等もホームで支援されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお小遣いはホームで管理し、移動販売時に自分で支払ってもらっていました。お金を所持している人もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している人もおられます。ホームの電話で家族様と話すケースもあります。便箋と封筒を準備し手紙を書いてももらうこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に注意し、リビングには優しい光が入ってくるつくりになっています。めだかの水槽があり季節を感じる掲示物を飾って落ち着いた環境を意識しています。	共同生活室には大きな窓が設置され、明るい光が差し込んでいます。窓越しに季節の移ろいや、人の流れも感じられます。めだかを飼育したり、季節を感じられる展示物の掲示がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア全体を大きく使い机を配置し、1人になったり、みんなで何かができたり話せるように援助しています。人間関係に注意し席替えも定期的に行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはできる限り自宅で使っていた家具などを準備していただいています。家族の写真や鏡、鞆などの小物も持ち込んでいただいています。	火気以外の物であれば、居室への家具等の持ち込みは自由です。自宅で使い慣れたものを持ってきて頂き、暮らしの継続ができるよう支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「お手洗い」、居室の入り口には氏名を表示し、自分で目的の場所が確認できるようにしています。		